

xué ér shí xí zhī bú yì yuè hū
学 而 時 習 之 ， 不 亦 說 乎 。まな とき これ なら よろこ がくじ
学んで時に之を習う、また説ばしからずや。〈学而第一〉うえだ あつ お
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄

皆さんご存知かと思いますが、これは『論語』二〇篇の中の冒頭の一句です。この前に孔子の言葉であることを示す「子(し)曰(いわ)く」zǐ yuēが付きます。さてここで言う「学」とはどういう意味でしょうか。それは先人たちの言葉をそっくりそのまま真似るということです。

今でも人真似をすることを学人儿 xué rén といいます。学ぶことは真似ることから始まるといいますが、これこそが文化の原点と言ってよいでしょう。

次に時ですが、一般には「時(とき)に」と訓読します。このように読むと「時々」「時たま」という意味にもなりかねませんが、ここでは「その時その時に」「その都度(つど)」「タイムリーに」という意味です。現代中国語でも时时 shíshí と言えば「常に」という意味になりますが、むしろこれの方が近いでしょう。

次の習のもとの字は「習」です。この字は雛鳥(ひなどり)が何度も翼をばたつかせながら自力で飛び立つ稽古をしている様を表わしています。つまり「同じことを何度も繰り返し訓練することです。練習、復習の「習」がまさにこれに当たります。そして私たちが一般に使っている「学習」の二文字は、この「学(まなぶ)」と「習(ならう)」の二つを組み合わせたものです。

当時はまだ紙のない時代でした。文字を書くには竹片か木片に書き付けるほかはありません。木よりも竹の方が丈夫なので書物には主に竹片を紐で繋ぎ合わせたものを使っていました。今

は紙で作られる書籍の「籍」、書簡の「簡」、便箋の「箋」などに竹かんむりがついているのはその名残です。

さて、このころ先人たちの教えは多くの場合、口伝(くでん)でつたえられていたと思われま。たとえ文字に書かれていたとしても、とても重くかさばるもので、字体も今では考えられないほど複雑でした。簡単にメモしたり持ち運んだりできるものではありません。したがって先人の教えに限らず、あらゆる知識は口移しで教わったことを丸暗記するほかありませんでした。

そのようにして得た知識や作法は、ただ覚えるだけではなく、何時いかなる時でも即座に実行に移せるものでなければなりません。それには忘れないうちに繰り返し繰り返し声に出して唱えることが肝要です。繰り返すことによってあらゆる知識は心の奥底に積み重なっていきます。このようにして膨大な知識や文化が一つ一つ身に付いていくことを実感することは、今日私たちが考える以上の喜びであったに違いありません。また、その場には一人だけでなく、恐らく大勢の仲間たちもいたことでしょう。「また説(よろこ)ばしからずや」とはそのことを伝えているのだと思います。

最後に付け加えておきますが、喜びを表わす説の字は悦の異体字でyuèと読みます。したがって日本語で音読すると「セツ」ではなく「エツ」となります。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会・講師)